



会報 No.152 令和5年7月号

少子化という逆風に向かって

一般社団法人八王子市私立保育協会 会長 石井 淳

5月の総会では、令和4年度事業報告と令和5年度事業計画、および役員改選のご承認をいただき、ありがとうございました。これまでの2年間、役員の方のご尽力と会員園の方のご理解とご協力で、コロナ禍という厳しい状況の中、順調に事業を行うことが出来ました。改めて御礼申し上げます。引き続き会長としてもう1期重責を担うこととなりましたが、皆様のご支援とご指導をいただきながら任期を全うしたいと思います。協会が持続可能な組織として存続し続けること、八王子の保育環境の維持・改善が、大きな責務と心がけています。しかし、ここにきて保育園を取り巻く環境は、急激に悪化してきています。今までとは全く異なる状況に対応していくためにも、協会の役員組織や事業内容を再検討すべき時期になったと判断しております。

八王子市における保育園の状況を見てみるとショッキングなことを伝えなければなりません。令和4年度の就学前児童数（0～5歳）は20,693人ですが、過去20年ですでに約25%減少しており、国立社会保障・人口問題研究所の人口推計によると今後20年間でさらに約30%減少すると見込まれています。このことにより保育園の定員数から申込児童数を引いた「定員余剰」が、八王子市ではそう遠くない10年後には約2,500人に、20年後には約3,500人になると予測されています。これは10年後には単純に平均すると1園あたり約25人の定員余剰となることを意味します。平均すると全園で定員より25人園児が少ない状況が、10年後にはやってくるのです。そんな園運営が想像できるでしょうか。たった10年後の話です。現に令和4年4月1日時点の保育施設の定員充足率は約92%で、10年後には約78%、20年後には驚くことに約62%になると見込まれます。これは各園の運営の根源を揺るがす状況に他ならず、会員園の皆さんには危機的な状況が目前に迫っていることを実感していただきたいと思います。協会としましても、この「欠員問題」は喫緊の最重要課題と認識しております。

八保協は、これまで大幅に会員数を増やし、平成30年には一般社団法人となり、また事務局の力を大いに借りて、安定した大きな組織になりました。会員園へのサービスも充実したものとなりました。一方、保育施設に係る環境としては、長らく保育士の採用難が続きながらも、基本的には待機児解消という追い風に乗って、会員園の安定した運営を背景に協会も円滑に運営を重ねてきました。しかし、ここにきていきなり少子化による欠員問題というこれまでにない状況に曝されようとしています。

一方、八王子市では、今後、乳幼児期の教育・保育施設に関する方針の策定、および八王子市単独加算の見直しが予定されています。どちらも園運営に直接影響するものですので、今まで以上に協会と行政との密接な関わりが必要となります。さらに行政との調整・検討、議会への説明・要望も一層重要度を増してきます。協会としても、これまでとは異なる役割が必要となってくるでしょう。また、八王子市では、こども家庭支援センターおよび児童館による新たな支援体制が3カ所の拠点になることに伴い、今後こども家庭支援センターの圏域が、現状の5圏域から6圏域に変更される予定です。保・幼・小も新しい圏域で連携をしていくこととなります。これまで八保協では、八王子市の圏域に合わせてブロック数を変更してきた経緯がありますので、今後6ブロックに変更していくこととなります。これもこれから取り組まなければならない課題となっています。

各園の運営を見てみると、給食費の集金、処遇改善費の計算、子ども園化による事務量の増加など、一昔前に比べると園務ははるかに多忙になってきています。そのため、本業として各園の運営を司る施設長である役員の方々が、協会活動にさける時間・労力は限られてきています。現在、全会員の約4割に役員として協会の運営を支えていただいておりますが、この点についても検討が必要であると考えています。

このようなことから、会員園の皆さんのご理解とご協力をいただき、協会の役員組織や事業内容について、これから時間を掛けて検証と検討を行い、来たるべく難局を乗り切りたいと思います。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

令和5年度 定期総会報告

5月29日に京王プラザホテル八王子にて定期総会を行いました。久しぶりの対面式の開催でした。

秦副会長の開会宣言、石井会長のご挨拶で会が始まり、最初に、八王子市からの行政説明を受けました。はじめに子どもの教育保育推進課長・山田氏より、市内保育施設の受け入れ状況について。「就学前児童数、保育所等の在籍児童数は減少傾向にあるものの本庁管内や由井管内は待機児童の多い地区になっている」と説明がありました。続いて保育幼稚園課長・堀川氏より、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う対応について。「新型コロナウイルスが5類になったことを踏まえ、保育所における感染症対策ガイドラインが改訂され、市より保護者宛に新型コロナウイルス感染症の対応についての通知を作成した。濃厚接触者の特定は行わず、同居の家族が発症していても、本人が無症状の場合登園は可能である」と説明がありました。また今後の補正予算についても説明があり、「多子世帯負担軽減の拡充により、収入に関わらず2人目が半額、3人目以降が無償化だったが、2人目から無償化となる。光熱費については、令和5年度も地方創生臨時交付金を活用して保育所等に支援を行うことが推奨されたため八王子市でも支援を行う予定である。東京都の物価高騰対策補助金が示されてから9月の補正予算で決定する」とのことでした。最後に、子ども家庭支援センター館長・小池氏より、保健福祉センターと子ども家庭支援センターとの一体的な支援体制の構築について。「こども家庭庁創設に伴い、子ども家庭センター設置が努力義務になった。令和5年以降、子ども家庭支援センターの圏域を保健福祉センターの圏域と統一する。親子ふれあい広場は合まで



の場所で継続する」と説明がありました。

その後、組織運営部長・滝澤先生より総会の成立が告げられ、議長団を選出しました。議長にめぐみ第一保育園・牛尾先生、副議長に市立石川保育園・高瀬先生を選出しました。第1号議案から第4号議案まで、議事は滞りなく進行し、すべての議案が承認されました。議長団解任の後、新任園長の紹介がありました。新任の園長先生は、光明第五保育園・山本恵美先生、八王子ひまわり保育園・野上容子先生、めぐみ第一保育園・牛尾一美先生、白百合桐田保育園・加藤明美先生です。

また今回は、永年勤続表彰者の表彰も行いました。八王子ふたば保育園・木村数代先生、幼保連携型認定こども園せいび・名倉桃子先生／手島順子先生、八王子ひまわり保育園・小林純子先生／上村桂子先生、大塚保育園・山脇由佳先生／松野朋子先生、めぐみ第一保育園・上野留衣子先生／和田孝枝先生、船森保育園・長井久美子先生／柴崎和子先生、敬愛シンフォニー保育園・大森望先生、敬愛保育園・星野ともか先生、以上13名の表彰でした。おめでとうございます。

最後に山下副会長より閉会のお言葉をいただき閉会となりました。



シリーズ 私の保育園

館ヶ丘保育園

園長 板野 祐子

触れる・つくる・食べる楽しさ

高尾駅から南東約1kmにある館ヶ丘団地の北西に位置し、正門前からは高尾山のリフト、2階のテラスからは遠くに新宿の高層ビルが望める、豊かな自然に囲まれた丘の上の保育園です。子どもたちは広い園庭を駆け回り、雨の日を除いてほぼ毎日団地内に何種類もある散歩コースに向かい自然を感じ、園庭の前の斜面では春はたんぽぽ・ヨモギを見つけ、小さな頃から土手のぼりなどしてのびのびと元気に遊んでいます。

さて、園では、年間を通じて様々な食育の取り組みを行っています。

調理保育では、筍の皮むき、グリーンピースの鞘取り、そら豆の鞘取り、とうもろこしの皮むきといった野菜にふれるものから、クッキー、ドレッシングソース、おにぎり、くるくるロールサンド、スイートポテトをアレンジする「お月見うさぎ」などの作った食べるものまで様々です。

中でも3～5歳児クラスで行う「おにぎり作り」は、年間3回機会を設けて取り組んでいるものです。一回目、一人一人がラップの上にごはんをのせて握ってみました。「できな—い」「ばらばらになっちゃう」「せんせい手伝って」から始まり、第二回、第三回と進むにつれ、年齢によっては「三角△おにぎり」らしくなってくる子どもも増えてきます。最後には



具材バイキング会となり、鮭、ツナマヨ、梅おかかなどの好きな具材を選んでオリジナルのおにぎりの完成です。子どもたちが小さな手で三角形を目指して作ったそれぞれの形が、また何とも言えず可愛いものです。自分で作ったおにぎりの味もまた格別だったようで「みて、ぼくのこんなかたち!」「美味しいね」と言いながら食べていました。

誰かに作ってもらったり、自分で作ったりと、これから先、食べる機会がきっと多い「おにぎり」は、作り方はシンプルなのに握った人の味がでる温かいたべものです。園での調理保育の体験が、子どもたちにとって「作って食べる楽しさの入口」になればと願います。

また、年齢に合わせて行う栄養教室は、例えば2歳児クラスでは「食材に触れる」をテーマに、給食室の職員チーム手作りの楽しい劇『人参大根ごぼうさんのお話』で野菜のお話をします。また、5歳児クラスは、「乾物を知ろう」や、「だし汁を味わおう」で利きだし汁体験などもします。

子どもたちの成長に欠かすことの出来ない大切な食事、食育。

何よりも、友だちと一緒に食べると美味しい!というクラスの和やかな雰囲気を大切に、食べる楽しさを伝えられるよう、これからも取り組んでいきたいと思ひます。



長房西保育園

園長 大塚 英生

長房西保育園は八王子市長房町にある都営団地に昭和50年開園した八王子市立長房第7保育園が、平成16年に統合、移転した定員100名の公立保育園です。「民にできることは民で」とする当時の内閣の骨太改革路線の一環として、平成15年9月に指定管理者制度が設けられ、平成18年4月からこの制度により公設民営化された八王子市で最初の保育園です。

八王子市立保育園の運営は、市が必要と判断する業務の基準や内容等が規定され、事業計画に従い業務を実施するもので、更に管理運営基本方針を踏まえ現行以上の保育を提供できるように、安定的且つ継続的に施設を管理運営するよう努めることが求められました。また、公立保育園の民営化は、当時、反対運動があり、法人園の保護者からも反対意見が出る等、指定管理者の応募について大変難しいものでしたが、一つひとつ丁寧に対応して理解を得ました。移行後も子どもたちや保護者が安心して楽しん

でもらえる民間園だからこそできる先駆的保育を目指してきました。その甲斐あって八王子市からも公立保育園の指定管理者制度は良く運営されていると認められ、5年毎の公募が10年毎に延長され、その間の5年は更新と変更されました。

園ではこれからの担い手となる子どもたちを育むために、子どもの権利条約そった保育を展開するとともに、「持続可能な開発のための教育（ESD）」にも取り組んでいます。今、メディア等でSDGsが取り上げられ、注目されていますが、園ではその前からESDを進めて保育環境を構成しています。その一環として一人ひとりの安心感を大切に「自分が大好き」「人が大好き」「自然が大好き」を保育理念として、保護者、地域にもこの三つの大好きが常に感じられる対話を大事にして、子どもたちが保護者はもちろん地域からも愛され育つような保育を進めています。そのため園庭の一角に畑と田んぼを作り、野菜を育てたり収穫したお米を一握りとおき翌年に発芽させたりして、子どもたちが命を繋ぐ体験をしています。



編集後記

子どもに関わる日常を送っていると、子ども達の成長に驚く事が多々あります。自分の想像をはるかに超えている所に到達していると、想像が空想になって、もしかすると第二の大谷翔平や藤井聡太が潜んでいるかもしれないと勝手に思ったりもします。子ども達の成長に寄り添う事はワクワクがいっぱいですね。（梅野）